

栄

デ
ザ
イ
ン

ン

講

演

会

in

久

庵

Ekuan Kenji

憲

沢

司

「ものど心—デザインの今日」

ものづくりは人間の文化・文明を支える基礎として長い歴史を刻んできたが、それは人間の生活を豊かにする一方で、さまざまな今日の問題を生み出してきた。そこには、近代化と20世紀の積み残した多くの課題が山積している。

地球環境時代といわれるこの21世紀に、ものづくりの立場から人間の再発見を行うこと。すなわち、物を巡る文化・文明のあり方を問い直し、新しい人間像・世界像を、構築していく必要がある。それらは、必ずや日本の産業と経済の更なる発展につながる鍵となるであろう。

半世紀以上、日本のデザイン界をリードしてきた栄久庵憲司氏が、「新たな21世紀を、道具による人間復興の世紀とするための提言」を語る。

2009年11月6日[金]

会場：金沢美術工芸大学

大学院棟3階 第一教室

〒920-8656 石川県金沢市小立野5-11-1

Tel：076-262-3531 Fax：076-262-6594

□プログラム

17:00 開場

17:30 開会・挨拶

17:35 講演「ものど心—デザインの今日」

栄久庵 憲司 (GKデザイングループ代表)

18:50 閉会

□主催：財団法人石川県デザインセンター

□共催：金沢市、金沢美術工芸大学

□お問合せ先

財団法人 石川県デザインセンター

〒920-8203

石川県金沢市鞍月2丁目20番地

石川県地場産業振興センター新館4階

TEL 076-267-0365 FAX 076-267-5242

E-mail : info@design-ishikawa.jp

栄久庵憲司

デザイン講演会 in

金

沢

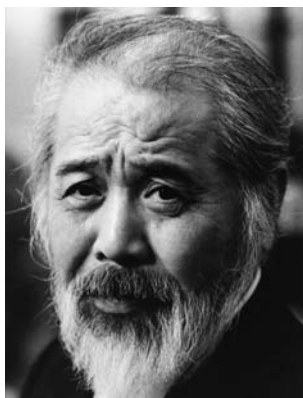
講演趣旨

栄久庵憲司

(えくあん けんじ)

「ものど心ーデザインの今日」

「美によって具えは道を得て道具となり、人は道具によってその道を悟る。」デザインを通じて道具づくりの世界に、半世紀を越えてたずさわってきた経験と実績を礎に、改めて人間と道具の有り得べき姿を提言する。そこで示される「道具寺道具村構想」は、人間と道具の正しい関係を築きあげる場の提案であり、道具を媒体として人間の物心両面における豊かな生活実現するための、「未来へ向けた村づくり構想」である。



栄久庵憲司 (GKデザイングループ代表)

1929年東京生まれ。1950年広島市戒善寺住職となる。東京藝術大学美術学部図案科卒業後、1957年GKインダストリアルデザイン研究所設立。通産省デザイン奨励審議会委員、日本インダストリアルデザイナー協会理事長、国際インダストリアデザイン団体協議会会長、世界デザイン博覧会総合プロデューサー、東京都デザインアップ委員会委員長等を歴任。現在、国際インダストリアルデザイン団体協議会名誉顧問、世界デザイン機構 (Design for the World) 会長、道具学会名誉会長等。

受賞：IDSA (米国工業デザイン協会) 世界デザイン大賞、Sir Misha Black Medal (英国)受章、フランス芸術文化勲章 (仏国) 受章、勲四等旭日小綬章受章。

著書：「道具考」(鹿島出版会)、「幕の内弁当の美学」(ごま書房/朝日文庫)、「モノと日本人」(東京書籍)、「道具論」(鹿島出版会)、「The Aesthetics of the Japanese Lunchbox」(MIT Press)、「デザインに人生を賭ける」(春秋社)ほか。

参加申込書

申込先:

石川県デザインセンター

申込締切り: 10月30日 (金)

FAX 076-267-5242 E-mail: info@design-ishikawa.jp

参加者氏名

勤務先

所属・部署・役職

連絡先住所

勤務先

自宅

その他

TEL.

FAX.

E-mail.